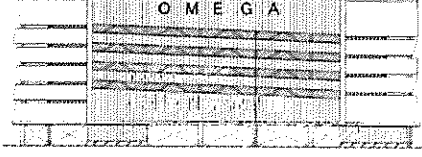


CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)第一物産 向日市 新築計画	階数	地上6F
建設地	京都府向日市鶏冠井町南七反田13-1・14-1	構造	S造
用途地域	工業地域、法第22条区域	平均居住人員	1,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,800 時間/年(想定値)
建物用途	集会所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2026年1月19日
敷地面積	7,151 m ²	作成者	横山 義弘
建築面積	3,974 m ²	確認日	2026年1月19日
延床面積	17,951 m ²	確認者	横山 義弘



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レターチャート)
<p>BEE = 0.5 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したWLC排出量の目安で示したものです。は参考として運用分をBEI+で表示しています。</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
Q: 環境品質 Qのスコア = 2.2		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.4 	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.6 	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 1.7
LR: 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.5		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.2 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.6 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 省エネ・創エネ共に配慮した建築物となるように、LED等の高効率機器及び太陽光パネルを設けた。	その他 特に無し	
Q1 室内環境 特に無し	Q2 サービス性能 維持管理が容易な部材を選定することで、メンテナンス性に配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 道路境界からは極力距離を設けた配置計画とすることで、周囲に開けた建築物となるように配慮した。
LR1 エネルギー BPIm=0.89	LR2 資源・マテリアル オゾン層破壊防止に配慮し、発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	LR3 敷地外環境 大気汚染防止に配慮し、ガス給湯器等の燃焼機器を使用していない。

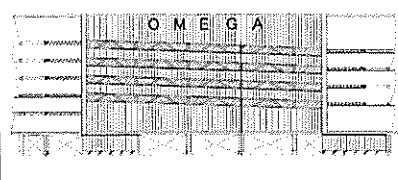
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)第一物産 向日市 新築計画	階数	地上6F
建設地	京都府向日市鷲冠井町南七反田13	構造	S造
用途地域	工業地域、法第22条区域	平均居住人員	1,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,800 時間/年(想定値)
建物用途	集会所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2026年1月19日
敷地面積	7,151 m ²	作成者	横山 義弘
建築面積	3,974 m ²	確認日	2026年1月19日
延床面積	17,951 m ²	確認者	横山 義弘



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)

標準計算: 建設 設備・更新・解体 運用 運転 材料

①参照値: 100%
②建築物の取組み: 93%
③上記+②以外の: 93%
④上記+: 93%

このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をB日+で表示しています。

2-3 大項目の評価結果 (レガ-チャート)

- 3(保健) N/A
- 4(教育) N/A
- 5(エンター) N/A
- 6(水・衛生) N/A
- 7(エネルギー) N/A
- 8(経済・雇用) N/A
- 9(イノベーション) N/A
- 11(都市) N/A
- 12(生産・消費) N/A
- 13(気候変動) N/A
- 15(陸上資源) N/A
- 17(実施手段) N/A

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	省エネ・創エネ共に配慮した建築物となるように、LED等の高効率機器及び太陽光パネルを設けた。	その他 特に無し
Q1 室内環境	特に無し	Q3 室外環境 (敷地内) 道路境界からは極力距離を離れた配置計画とすることで、周囲に開けた建築物となるように配慮した。
LR1 エネルギー BPim=0.89	LR2 資源・マテリアル オゾン層破壊防止に配慮し、発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	LR3 敷地外環境 大気汚染防止に配慮し、ガス給湯器等の燃焼機器を使用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される